鹿児島大学

The Campus Press 学生による 学生の新聞

沿革

1949年、旧制七高、高等師範など5校で設立された。鹿児島市内の3キャンパスに、教育や水産など9学部を擁する総合大学。学部・大学院生計約1万人が在籍する。

研修医数 早くも増加

病院に総合臨床研修センター開設

人体マネキンを使って演習する研修医たち

鹿児島大学病院(鹿児島市桜ケ丘8丁目)は昨年10月、総合臨床研修センターを新病棟8階に開設した。現在、研修医66人(基本2年間)を抱える同病院は、県内の研修医不足を改善するために、国の援助を受け県と協力して、同センターを設立した。その効果は早速表れ、2014年度の研修医採用数は、本年度の30人から10人近く増えると期待されている。

同センターには、セミナー室や最新のシミュレーターがそろう各種演習室、模擬病室のほか、学習室や仮眠室、さらにラウンジなど研修医をサポートする施設が整っている。

ラウンジ内には健康器具も設置されており、多忙な研修医の健康面にも配慮している。また、研修医専用の宿舎として2階建てのレジデントハウスも敷地内に建設し、県外からの受け入れにも対応している。定員は13人ですでに満室だ。

医師臨床研修制度が04年施行されて以来、研修医は出身大学病院以外でも、指定を受けた病院なら研修を受けることが可能になった。その結果、かつて90人ほどいたのが11年度はわずか19人。多くが都会の研修病院に集まってしまい、地方の大学病院は研修医不足に悩まされることとなった。大学病院は地方に医師を派遣するのたため、センターの認知度が高まれば、マッチング率はまだまだ上がることが期待される。

センターは、コミュニケーションが重要となるチーム医療の技術向上や、結婚や出産を経た離職女性医師の復職支援も行う。県内の医療従事者全体を増やすことを目指しているからだ。

瀬戸山仁特任助教は「鹿児島県は、以前から県・大学病院・医師会が三位一体となって、医療関係者全体の生涯教育を行う体制を整えている。さらに研修医支援の拠点ができたことで、より安全で質の高い医療を提供でき、地域医療に貢献できる」と語った。

(法文学部人文学科2年・前田佳穂、同・鹿島優果)

最新機器完備、支援の拠点に

研修センターが8階に入る鹿大付属病院の新病棟

模擬病室で対応力

センター演習室内

鹿大の総合臨床研修センターの演習室に完備されたシミュレーターの総額費用は1億8千万円、1台1千万円を超える機器も装備されている。内視鏡検査や外科手術、超音波検査などの高度なシミュレーションを日ごろから行うことで、術中の突発的な事態にも臨機応変な対応力が身に付けられるという。

以前は、実際の患者を相手に経験を積むオン・ザ・ジョブ・トレーニングが主流だったが、現在ではシミュレーターを使うなどしてオフ・ザ・ジョブ・トレーニングに移行した。センターも多くのシミュレーターを導入することで、時代の流れに対応しているのだ。

内視鏡シミュレーターを操る瀬戸山仁特任助教

また実際と同じ造りの模擬病室も設置されており、研修医たちはそこで、本番さながらの演習を行う。その様子はカメラで撮影され、映像を後で見直して指導医と研修医で評価し合うことで、技術向上を図っている。

3Dプリンターも備えられており、患者のCTデータを用いて立体模型を作り出すことができる。将来的には患者に本人の臓器の模型を使って説明したり、模擬手術を行ったりといった活用方法が見込まれている。

(法文学部人文学科2年・谷吉優里奈)